



TITLE:

日本図書館研究会・図書館学セミナー - 図書館の仕事の原点としての「選択」を考える -

AUTHOR(S):

CITATION:

日本図書館研究会・図書館学セミナー - 図書館の仕事の原点としての「選択」を考える -. 静脩 1978, 15(3): 7-7

ISSUE DATE:

1978-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36815>

RIGHT:

まず報告事項として、各調査研究班「図書館機械化」(継続)、「大学図書館改善」(終了)、「図書館相互協力」(継続)の報告と「大学図書館基本問題 特別委員会」(終了)の報告があった。研究集会は「大学図書館の相互協力とネットワーク」をテーマとして講演と討議が行われた。

第3日の分科会は3部に分れて討議が持たれ、午後にその取りまとめをして、今回の総会は終了した。会場となった筑波研究学園都市内に、主要施設の新しい建物が点在する地域の広大さと自然環境の快適さは参加者に新鮮な強い印象を与えた。

なお各分科会から出された要望事項は7月12日の常務理事会でまとめられ、7月28日付で文部大臣はじめ関係方面へ要望書として提出された。

この内容は次のとおりである。

A かねてより関係当局の努力によりその実施面において相当の成果があがっているが、さらに

特段の配慮を要望する事項として、1 予算について図書館維持費、夜間開館・休日開館に必要な経費、外国雑誌購入費、参考図書購入費、学生用図書購入費、特別図書購入費の増額。2 職員について参考業務担当職員の増員。

B 以前よりたびたび要望してはいるが、まだ実施されていないので格別の配慮を要望する事項として、1 冷房設備の設置とその維持費。2 図書館職員について相互協力業務担当職員等の6項目(前年度通り)。

C 本年度上記総会において新たな問題としてとりあげられたので、是非配慮を願いたい事項として、身障学生に対する図書館サービスを充実させるために必要な職員の増員。

D 特別要望事項として、大学図書館関係諸基準の改訂、とくに施設基準の抜本的改訂をはかるとともに、それらを裏づける措置をとること。

日本図書館研究会・図書館学セミナー

——図書館の仕事の原点としての「選択」を考える——

上記セミナーが、さる7月14・15日の2日間、比叡山「延暦寺会館」で開催された。今回のセミナーは、「図書館学および図書館学の専門的業務のなかで中核的と考えられながら、理論化が困難で経験的に扱われている『選択、の問題』」に焦点をあて、「選択の現況、日常的に直面している問題をふまえた上で選択理論に学び、それを図書館業務のなかに具体化していく基本的な方向づけとしての収集方針の作成という問題を検討する」主旨で開かれたものである。78名(大学40名、公共31名)の参加者があり、定員をオーバーするほどで「選択」についての関心の強さが感じられた。

第1日は、酒井忠志氏(京都府大)、西田博志氏(大阪府立図)から、大学と公共図書館における図書選択の現状が、日常業務のなかで片手間として扱われていること、図書館員より利用者が文献に精通していること、蔵書構成・読書の自由の確立のためにも選択基準の確立と選択業務の確立の必要性が強調された。夜には、大学と公共に分

かれて図書選択の実状報告をもとに経験交流を行った。第2日午前、河井弘志氏(日体大)より「図書選択理論の発展—実務学から科学へ—」と題して、図書選択論史の考察、古典的図書選択論や良書論などの実務学について論じ、さらに、要求・読書興味調査・書評・蔵書評価など文献を紹介しながら、選択の実務学から科学(理論化)への流れを詳細にわたって解説された。まとめとして、館員の選択に対する関心の必要性を強調された。最後に(第2日午後)大学と公共に分かれて「収集方針の意義と作成」をテーマに大学図書館では、三上正礼氏(大阪経済大図)から成文化されている収集方針の事例報告をもとに討議を行った。選択者は利用者か館員か、は意見の分かれるところであるが、選択権の問題は別にしても収集方針の早急な成文化とその公開が必要であることを認めあうなど、熱心な討論を行ない、盛会であった。